

#### 4 診療科の状況

##### (1) 医師名簿

(平成25年度)

課 係 名	職 名	氏 名	備 考
院 長	院 長	古 川 重 治	
副 院 長	副 院 長	三 枝 伸 二	
内 科	内科部長	加 藤 吉 保	
	人工透析科部長	大 橋 保	
	総合診療科部長	田 中 裕 之	
	医務技師	川 崎 文	
消 化 器 科	消化器科部長	岩 屋 博 道	
	医務技師	中 村 義 孝	
循 環 器 科	循環器科部長	河 野 智 紀	
	医 長	大 井 正 臣	
外 科	消化器外科部長	宮 菌 太 志	
	外科部長	青 木 大	
	医務技師	大 迫 祐 作	
	医務技師	米 盛 圭 一	
	医務技師	林 直 樹	
放 射 線 科	放射線科部長	原 田 治	

## 4 (2) 内 科

平成25年度の内科は血液専門医の 加藤吉保 内科部長, 透析専門医の 大橋 保 人工透析科部長, 総合診療科の 田中裕之 総合診療内科部長, 総合診療科の 川崎 文 医師の4名で構成されています。

加藤医師は, 再生不良性貧血, 赤芽球癆, 骨髄異形成症候群, 急性骨髄性白血病, 慢性骨髄性白血病, 慢性リンパ性白血病, ホジキン病や非ホジキンリンパ腫のうちのB細胞リンパ腫, 成人T細胞白血病・リンパ腫などの悪性リンパ腫, 多発性骨髄腫, マクログロブリン血症, 特発性血小板減少性紫斑病など血液疾患を中心に診療しています。血液疾患の診断に欠かせない骨髄穿刺は平成20年度計69回, 平成21年度65回, 平成22年度54回, 平成23年度57回, 平成24年度32回, 平成25年度42回施行しました。

25年度主な症例	既患者数	新患数	(内訳)	
再生不良性貧血	5件	0件		
赤芽球癆 (PRCA)	1件	1件	AIHA合併	1例
骨髄異形成症候群	23件	13件	AMLへ移行	3例
急性骨髄性白血病	3件	4件	MDSから移行	3例
慢性骨髄性白血病	6件	2件		
急性リンパ性白血病	0件	0件		
慢性リンパ性白血病	3件	0件		
悪性リンパ腫				
B細胞リンパ腫				
B細胞びまん性リンパ腫	14件	5件		
B細胞濾胞性リンパ腫	5件	2件		
B細胞マントル細胞リンパ腫	3件	1件		
T細胞リンパ腫				
成人T細胞白血病・リンパ腫	6件	6件		
ホジキンリンパ腫	1件	0件		
他の血液疾患				
多発性骨髄腫	9件	1件		
マクログロブリン血症	3件	0件		
特発性血小板減少性紫斑病	24件	0件		
骨髄増殖性腫瘍				
真性多血症	6件	4件		
本態性血小板血症	7件	2件		
原発性骨髄線維症	1件	0件		

川崎医師は田中総合診療科部長の元, 内科一般から血液疾患の診療まで内科全般にわたって診療に従事しています。平成26年4月転勤されました。

大橋医師は、人工透析科部長として、“血尿・蛋白尿から腎不全まで”腎臓内科一般の診断・治療を行っています。腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症などの全身疾患に伴う腎疾患の診断・治療、急性腎不全、慢性腎不全症例の保存療法から透析導入、循環器、消化器、外科などの種々の合併症のある透析患者の治療、各種血液浄化療法の実施：血液透析療法、血液濾過透析、腹膜透析療法、ECUM、血漿交換療法、エンドトキシン吸着などを施行しています。

#### 25年度実績

慢性維持透析導入患者数	9名
内シャント設置術	16件
内シャントPTA	6件

田中医師は呼吸器領域を中心に内科一般を診療しています。また緩和ケア部門も担当しています。その他、地域医療支援機構の代診医派遣業務を行っており、南さつま市笠沙の野間池診療所等に9日間の代診派遣を行いました。

呼吸器関連の検査では、気管支鏡検査34件行いました。

呼吸器関連の入院患者疾患分類は以下の通りです。

原発性肺癌	88件
閉塞性肺疾患（COPD、気管支喘息等）	12件
びまん性肺疾患（間質性肺炎等）	13件
呼吸器感染症（肺炎等）	69件（内、肺結核19件）
睡眠時無呼吸症候群	6件

また、緩和ケア部門の担当として癌の末期の患者さんの受け入れも行いました。

癌末期の緩和ケア（消化器癌、卵巣癌、耳鼻科癌等）44件

#### 4 (3) 消化器科

平成 25 年度の消化器科は常勤 2 人体制が維持され、隈元・向井から岩屋・中村へと新たな体制となった。一昨年・昨年同様、大学からの内視鏡検査の応援はなかったが、肝臓専門外来(小田先生)は引き続き来ていただき、肝疾患患者数も増加して時には夜まで診療頂いていた。前年度と比較して、超音波内視鏡と ERCP による胆膵精査の件数が著明に増加した。

診療内容は前年を踏襲する形で行い、外来患者数・入院患者数は昨年度に比べて若干の減少が見られた。今後の患者増加を見込むには開業医の先生方からの継続的な紹介や入院日数の調整が必要と思われる。過疎化・高齢化の進む薩南地域ではいかにビジネスモデルを構築するかが今後の課題と考えられた。

内視鏡関連では診断から治療内視鏡への時代変遷の変革期であり、ニーズに耐えうる医師の質的・量的の向上、インフラ整備、スタッフ教育の必要性を感じた。

主な検査実績は(2013年4月～2014年3月)以下のとおりであった。

◆ 上部内視鏡検査	1,594 件
◆ 下部内視鏡検査	758 件
◆ ポリペクトミー(胃・大腸)	118 件
◆ EUS	239 件
◆ EUS-FNA	10 件
◆ ERCP	130 件
◆ ダブルバルーン小腸内視鏡検査	5 件
◆ MDL	26 件
◆ カプセル内視鏡	4 件
◆ ESD	26 件

#### 4 (4) 循環器科

平成 25 年度は、古川重治院長，大井正臣医長，私の計 3 名で診療にあたりました。当科では主に心不全，冠動脈疾患(心筋梗塞や狭心症)，弁膜症疾患，大動脈疾患，不整脈疾患を中心に検査，治療を行っています。

検査としては心エコー，経食道心エコー，ホルター心電図，心筋シンチ，心臓カテーテル検査をコンスタントに施行でき，今年度から新たな CT 装置の購入に伴い，冠動脈 CT 検査を取り入れ冠動脈疾患に対する検査モダリティーも拡充してきました。

治療としては薬物療法を基本に，人工ペースメーカー(新規，交換)や，血管内超音波(IVUS)を使用した経皮的冠動脈形成術(PCI)，鹿児島大学や鹿児島医療センターと連携し，外科的手術(冠動脈バイパス術や弁置換術，大動脈瘤手術)やカテーテルアブレーションの依頼をしながら治療も充実させています。

今後も南薩地区の循環器科の中核であるとともに，地域の診療所や病院との連携をより一層強めて，高齢化社会医療のモデルを構築していく必要があると痛切している今日この頃です。

文責 循環器科部長 河野 智紀

##### 循環器科実績

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
心不全	76	75	90	94	79	92	110
心筋梗塞	17	20	17	6	10	33	61
(急性)							19
(陳旧性)							42
狭心症	-	-	-	-	53	139	72
心エコー(経胸壁)	1,924	2,080	2,311	2,282	2,253	2,321	2,233
経食道心エコー	2	12	18	10	11	12	15
Holter 心電図	239	273	353	250	240	222	253
心筋シンチ	240	273	265	246	233	264	314
冠動脈CT	6	1	1	-	-	-	17
心臓カテーテル	49	86	75	78	64	87	120
人工ペースメーカー	28	36	37	34	47	39	39
(新規)	22	21	20	22	28	24	26
(交換)	6	15	17	12	19	15	13
PCI			2	-	-	10	31
IVUS(血管内超音波法)							11

## 4 (5) 外 科

### 1. 外科の特徴

平成 25 年の外科は三枝医師（副院長）を筆頭に宮菌（消化器外科部長）、青木医師（外科部長）、と大迫医師（1 月～6 月）、米盛医師（7 月～12 月）、のメンバーで診療を行いました。また時折元院長である福元先生に手術指導をいただいています。

消化器外科を中心に乳腺手術・肺手術・甲状腺手術も手掛けており、鏡視下手術も腹部疾患を中心に積極的に導入しています。当科では、抗がん剤治療に関して中央施設に遅れることなく、最新の知見・プロトコールを南薩地域の癌患者に提供すべく、鹿児島大学消化器外科（旧第一外科）主催の臨床研究のみならず、大学病院も含めた九州の主たる癌治療施設が参加している KSCC (Kyushu Study group of Clinical Cancer) による化学療法臨床治験にも積極的にエントリーしています。これにより消化器外科領域においてはほぼ全国レベルの抗がん剤治療の提供が可能と自負しています。

今後も地域の病院・医院・介護サービスステーションとの地域医療連携をさらに強化し、医療サービスの維持に努力します。

（文責 消化器外科部長 宮菌太志）

### 2. 外科の実績（平成 25 年度）

- ◆ 全手術症例 266 例
- ◆ 全身麻酔症例 241 例
- ◆ 鏡視下手術症例 79 例

手術名	件数（鏡視下手術）	疾患名	件数（鏡視下手術）
・乳腺悪性腫瘍手術	4	・腹腔内膿瘍	2
・縦隔腫瘍切除術	1	・虫垂炎	20 (20)
・気胸	2 (2)	・イレウス	24 (2)
・肺悪性腫瘍手術	8 (3)	・結腸切除（悪性疾患）	27 (12)
・食道悪性腫瘍手術	1	・結腸切除（良性腫瘍）	3 (1)
・試験開腹術	1 (1)	・人工肛門造設術	6
・胃悪性腫瘍手術	9 (2)	・直腸切除・切断術	11 (5)
・胃粘膜下腫瘍手術	1 (1)	・肛門疾患	4
・肝悪性腫瘍手術	2	・鼠蹊部ヘルニア	69
・胆嚢摘出術（良性疾患）	30 (29)	・腹壁ヘルニア	8
・胆嚢悪性腫瘍手術	3 (1)	・気管切開	3
・胆管悪性腫瘍手術	1	・プローベ	17
・消化管穿孔	9		

#### 4 (6) 放射線科

平成 25 年度の放射線科も常勤は原田の一人体制でした。主たる業務は CT や RI の検査レポートの作成です。へパトーマに対する血管造影と動注療法も行っておりますが、最盛期の 20 年前の 1/5～1/10 程度に減少しています。放射線治療につきましてはこれまでと同様毎週月曜日午後鹿児島大学放射線科より、放射線治療専門医の中村文彦先生が応援に来て下さり、治療計画や治療中の患者さんの診察さらには院内外の先生方からの放射線治療に関するご質問やご相談にも応じて頂いております。病棟業務は主にへパトーマの患者さんの治療からターミナルケアを行っています。

##### 放射線科の実績 (平成 25 年度)

- ・ CT 2,618 件
- ・ RI 101 件
- ・ 血管造影 18 件
- ・ 放射線治療 35 件

文責 放射線科 原田 治



25 年度 医局スタッフ